

最新版 日本語教材

日本

この一冊で日本が分かる！

(日) 大森和夫 大森弘子 著

日本・国際交流研究所 発行

外语教学与研究出版社

最新版 日本語教材

日本

この一冊で日本が分かる！

(日) 大森和夫 大森弘子 著

日本・国際交流研究所 発行

外语教学与研究出版社
北京

京权图字: 01-2012-5418

作者: (日) 大森和夫, 大森弘子

图书在版编目(CIP)数据

日本: 日文 / (日) 大森和夫, (日) 大森弘子著. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2012. 7

ISBN 978-7-5135-2227-4

I. ①日… II. ①大… ②大… III. ①日本—概况—日文
IV. ①K931.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2012) 第 162364 号



悠游网—外语学习 一网打尽

www.2u4u.com.cn

阅读、视听、测试、交流、共享

提供海量电子文档、视频、MP3、手机应用下载!

出 版 人: 蔡剑峰

责任编辑: 田秀娟

装帧设计: 平 原

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京市鑫霸印务有限公司

开 本: 650×980 1/16

印 张: 16

版 次: 2012 年 7 月第 1 版 2012 年 7 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5135-2227-4

定 价: 35.00 元

* * *

购书咨询: (010) 88819929 电子邮箱: club@fltrp.com

如有印刷、装订质量问题, 请与出版社联系

联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: zhijian@fltrp.com

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010) 88817519

物料号: 222270001

まえがき

「日本」という国は、2011年3月11日に起きた東日本大震災と東京電力・福島第一原発事故によって、大きく変貌しました。政治も経済も深刻な影響を受け、日本は大きな試練に立ち向かっています。今の日本を理解するために、まず、東日本大震災後の日本の状況を知ってください。

「がんばろう日本！」を合言葉に復旧から復興に向かっている「日本と日本人」について、幅広い知識を身につけてください。最新の情報を含めて、「日本と日本人」に関する新しい「日本語教材【日本】」を作成しました。

外国語を学ぶ目的は、外国の言葉を読んだり、文章を書いたり、話をしたりすることだけではありません。「言葉」を通して、その国の「社会」や「文化」の本当の姿、「人の考え方・心情」などを理解して初めて、真の友好の絆を深めることができます。

海外の日本語学習者にとって、「語学訓練」に偏らない、「文化理解」重視の日本語教育が必要だと思います。

皆さんが日本語を学ぶ中で、本書を活用して日本の多くの分野に関する知識を豊かにして、日本を少しでも好きになってもらえれば幸いです。

2012年7月
国際交流研究所
(大森 和夫・弘子)

りやくれき

著者の略歴

- ☆ 大森和夫 1940 年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。
朝日新聞記者 (大分支局、福岡総局、政治部、編集委員) を経て、1989
年に国際交流研究所を設立。
- ☆ 大森弘子 1940 年生まれ。京都女子短期大学家政学部卒。
最新版・日本語教材【日本】編集長
- ◎ 出版物 《中国の大学生、院生『日本語作文コンクール』の各回の「作
文集」》、《日中友好に関するアンケート集『中国の 12,967 人に聞き
ました。』》、《もう日本を恨まない＝夫婦の『日本語交流』十九年間
の足跡》、《日本語教材【日本】(上、下)》など。
- ※ 国際交流研究所 136-0076 日本・東京都江東区南砂 6－7－36－709
メール＝khomori8@u01.gate01.com
U R L＝<http://hwm8.spaaqs.ne.jp/hiroko913/>
- 題字「日本」、カット 大森弘子

目次

一章	東日本大震災と日本	1
一節	大地震・大津波と原発事故	3
二節	復旧・復興への道	10
三節	政治の課題と歩み	20
四節	日本経済の推移	29
五節	「少子高齢」社会	35
六節	教育の変遷	41
二章	国の形と仕組み	51
一節	国土と人口	51
二節	三権分立	54
三節	日本国憲法	62
四節	元号(年号)	66
三章	歴史	69
一節	原始と古代	69
二節	中世	76
三節	近世	79
四節	近代と現代	84
四章	自然	93
	四季=季語と年中行事	93
一節	春	94

二節	夏	107
三節	秋	118
四節	冬	127

でんとう 五章 伝統文化 143

一節	げいじゆつ 芸術 143
一	か どう い ばな 華道 (生け花) 143
二	さ どう ちや ゆ 茶道 (茶の湯) 149
二節	げいのう 芸能 153
一	か ぶ き 歌舞伎 153
二	の う ごようげん 能と狂言 157
三節	スポーツ 160
一	す も う 相撲 160
二	じゅうどう 柔道 166
三	から て 空手 168
四	けんどう 剣道 169

六章 日本語 171

一節	文字の歴史 171
二節	「話し言葉」と「書き言葉」 175
三節	けい ご 敬語 178
四節	こう じ えん しん ご 『広辞苑』の「新語」から 182

七章 文学 185

一節	こ てん 古典 185
一	げん じ ものがたり 源氏物語 185
二	まんようしゅう 万葉集 190
三	まくらのそうし 枕草子 194
四	ひやくにんいつしゅ 百人一首 199

二節	きんだい しようせつ 近代の小説	204
一	なつめ そうせき 夏目 漱石	204
二	もり おうがい 森 鷗外	207
三	しまざき とうそん 島崎 藤村	209
四	むらかみ はるき 村上 春樹	211
三節	はいく し たん か 俳句、詩、短歌	214
一	まつ お ばしやう はいじん 松尾 芭蕉 (俳人)	214
二	みやざわ けんじ し じん どうわ さつ か 宮沢 賢治 (詩人、童話作家)	220
三	いしかわ たくぼく か じん 石川 啄木 (歌人)	222
四節	むかしばなし 昔話	225
一	つる おんがえ 鶴の恩返し	225
二	もも た ろ う 桃太郎	227
三	いっすんぼうし 一寸法師	229

八章	こうどうようしき 日本人の行動様式	233
一節	のうこうせいかつ 農耕生活と文化	233
二節	しゅうだん し こう 集団志向	236
三節	じょれつ 序列社会	237
四節	わ 和の精神	238
五節	しんこうしん しゅうきよう 信仰心と宗教	239

九章	わ しょく 和食	245
一節	すし すし すし すし (寿司・鮓)	246
二節	てん てん ぶ ら 天ぷら (天麩羅)	248
三節	や すき焼き	249
四節	なべりよう り 鍋料理	249
五節	なつとう 納豆	251

あとがき	252
------	-----

一章



ひがし に ほん だい しん さい

東日本大震災と日本

東日本大震災は、日本の政治、経済、社会に様々な難しい課題を突きつけた。

2011年(平成23年)3月11日午後2時46分、1000年に一度といわれる東北沖を震源とする大地震が起こり、一道一都十県を襲った。大地震と大津波、そして原発事故は、主に、岩手、宮城、福島ふくしまの3県に未曾有の凄惨な被害をもたらした。

大震災の死者は1万5,854人に上り、3,155人の行方が分かっていない。(2012年3月11日時点)。医療施設や老人・介護施設等の高齢者が避難する途中や避難所で亡くなるケースが目立った。一年後も、約34万人が仮設住宅などで避難生活を強いられている。

大震災は大津波を引き起こし、東京電力・福島第一原子力発電所で原発事故が発生し、想像を超える大きな被害をもたらした。多くの被災者が生活と仕事の場を奪われ、日本人は地震と津波と放射能の恐怖に打ちのめされた。原発事故では、放射能被害について政府の説明が分かりにくく、遅れたため、国民の不安を募らせた。

.....



地震と津波で、東北地方沿岸の多くの街が様相を変えた。発生から2カ月後、5月11日時点の主な被災状況。

☆ 岩手県—大槌町(市街地はほぼ壊滅状態。死亡751人。行方不明約950人。約5,500人が避難)

☆ 宮城県—石巻市(住宅全壊約2万8千棟。死亡2,933人。行方不明約2,770人。約9,690人が避難)

☆ 福島県—南相馬市(海岸付近はほぼ壊滅状態。死亡531人。行方不明約410人。約5,710人が避難)

.....

被災地では、自衛隊が救助活動、行方不明者の捜索、遺体の収容、救援物資の搬送、避難所での生活支援、被災地の「がれき」撤去など、復旧作業で大きな役割を果たした。欧米やアジア諸国など世界各国からの支援活動も活発で、支援物資の輸送、被災者の生活支援、医療活動、被災地の復旧作業に当たった。

被災地には、全国の自治体、企業、大学などのボランティアの人たちが被災地に入り、支援の輪が広がった。各地で、被災者同士、あるいは、被災者と支援者の「助け合い、支え合う」姿が見られ、日本赤十字社、NHKなど4団体と政府に寄せられた義援金だけで3千億円を超えた。

.....

復旧には長い期間を要し、原発事故は放射能の恐怖という大きな爪痕を残した。

【日本という国】は大きな難題を抱えたが、「がんばろう！日本」を合言葉に、そして、「絆」と「底力」(我慢強さ)を支えに、復興へ向けた力強い歩みを続けている。

〈「一節」と「二節」は、東日本大震災の被害状況と復旧・復興の様子〉

一節

おお じ しん おお つ な み げん ばつ じ こ 大地震・大津波と原発事故

(大地震と大津波)

世界 4 位の 超 巨大地震

宮城北部で震度 7。地震の規模を示すマグニチュード (M) は 9.0。1900 年以降、2004 年のインドネシア・スマトラ沖地震に次ぐ世界 4 位の超巨大地震。地震のエネルギーは 1995 年の阪神・淡路大震災の約 1,450 倍に相当。

震源は宮城県・牡鹿半島の東南東約 130^{キロ}。海側と陸側のプレート (岩板) の境界面が最大 50^{メートル}以上ずれ、大きな地殻変動が起きた。地震が起きた海域は、岩手沖から宮城、福島、茨城沖まで長さ約 500^{キロ}、幅約 200^{キロ}に及んだ。陸地も青森、岩手、宮城、茨城、千葉県など約 500^{キロ}にわたる太平洋沿岸地域が被害を受けた。

東北全体が東に引っ張られ、日本列島の形も変えた。宮城県の牡鹿半島が東に 5.3^{メートル}移動、1^{メートル}以上沈降したほか、宮城県や岩手県で約 4^{メートル}東に動き、約 70^{センチ}沈降した陸地も。宮城県沖の海底では東に 31^{メートル}の地殻変動が観測された。

震災後、体に感じる余震が 2011 年末までに約 7 千回に上った。大地震から 30 分後に茨城県沖で起こった M 7.7 が最大の余震。

大震災では、家やビルを支えている地盤がドロドロ状態になる「液状化」現象が起きた。建物が沈んだり、傾いたり、道路が陥没したりした。千葉県浦安市など東京湾沿岸だけでも約 1 万 2 千世帯が被害を受けた。



日本

海岸線を呑みこんだ大津波

東日本大震災の被害を大きくしたのが予想をはるかに超えた大津波。地盤が沈降して浸水域が拡大、東北地方の太平洋沿岸は多くの街が姿を消し、美しいリアス式海岸の様相は一変した。津波の高さが20mを超えた地域は南北290km以上にわたった。

海岸近くの崖などでは津波が斜面を駆け上がり、岩手県宮古市では津波が遡る遡る上高が39.7mに達した。また、宮古市の畑で、海岸の防波堤近くから約470m運ばれた巨大な「津波石」が見つかった。重さは約140トン(幅が6.5m、高さが2.4m)と推定され、津波の威力を見せつけた。

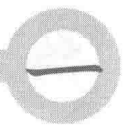
津波は内陸まで最大で約5kmに達し、海岸から2～3kmまで砂などが運ばれた。津波による浸水被害面積は岩手、宮城、福島を中心に561平方km(日本で一番大きい湖・琵琶湖の面積の約8割)に上った。

最大45万人が避難

地震と津波、そして原発事故のため、岩手、宮城、福島の被災地で、多い時で約45万人が学校、公民館などの避難所に避難した。被災者の多くは、避難場所を変える二次避難、三次避難を余儀なくされ、他の市町村や県外への避難、さらに地域住民の集団避難や、住民の一部と役所の機能が一緒に移る集団移転も行われた。

その後、一部地域で電気やガスなどのライフラインが復旧したが、2012年3月時点で、約34万人が仮設住宅や各都県の公営住宅、さらに親戚・知人宅、民間の賃貸住宅など自宅以外の場所に避難している。

約5万戸の仮設住宅が建てられ、被災者の生活は落ち着きを取り戻しつつある。しかし、仮設住宅は期限付きで、いずれは定住先を確保しなければならない。特に、福島第一原発周辺の被災地は高濃度放射能汚染の土壌や「がれき」除去に時間がかかり、被災者全員が自宅に帰り、安心して生活できる見通しは立っていない。



なお、内閣府などの推計によると、大震災^{とうじつ}当日、自宅^{じたく}に帰れなかった帰宅困難者^{きたくこんなんしゃ}が東京など首都圏^{しゅとけん}で300万人～500万人に上った。

❁ がれき（瓦礫）などの「震災廃棄物」^{しんさいはいきぶつ}

地震・津波^{えんがん}のため沿岸市町村で発生した「がれき（瓦礫）」など「震災廃棄物」の量は、環境省の推計によると、3県で合計約2,253万トンに上る。倒壊家屋などの「がれき（瓦礫）」のほか、倒木^{とうぼく}、ヘドロ（海底^{おでい}の汚泥^{こわ}）、壊れた自動車や船舶等が含まれる。全国の年間の一般廃棄物総量の2分の1に相当。推計は、内陸部の「がれき」などは含まれていない上に、3県以外の青森、茨城、千葉県などでも震災廃棄物が生じており、実際の廃棄物の量は推計を大きく上回る。また、震災廃棄物の一部は海に流出^{りゅうしゅつ}して、海底^{かいてい}に沈み、海中を漂流^{ひょうりゅう}した。

被災地^{いた ところ}は到る所で、震災廃棄物が山のように積まれ、復旧作業を困難にした。

（放射能に汚染された福島県の「がれき」などについては後述^{こうじゆつ}）。

❁ 産業の被害

宮城、福島、岩手の3県の漁港^{ぎょこう}や水産・養殖^{ようしよく}・加工施設が損壊したり、津波で流されたりしたため水産業は大きな打撃を受けた。

また、農業の被害も大きく、津波で流失したり冠水^{かんすい}したりした水田^{すいでん}は、3県で約2万7千㍍に上った。このうち、がれき（瓦礫）を撤去^{てつきよ}し、土中^{どちゆう}の塩分^{えんぶん}を取り除かなければ稲作^{いなさく}ができない水田は70%以上に及んだ。塩分を完全に取り除くには2～3年かかるとみられている。

自動車、電機などの生産拠点^{きよてん}や部品工場が被災し、経済活動が大きく落ち込んだ。



被害額

政府の試算では、「東日本大震災」の直接的な被害額は16兆円～25兆円に上る。「工場や住宅などの建築物」、「電気・ガス・水道の基礎インフラ」、「道路、港湾、空港などの社会資本」などの被害の総額。この試算は、「福島第一原発事故」による放射能汚染被害や、農林水産物の被害などが含まれていない。従って、実際の被害総額は試算を大幅に上回る。

福島第一原発の事故

原子炉損壊と水素爆発

東京電力・福島第一原子力発電所（福島県大熊町、双葉町）は、大震災発生直後、運転中の1～3号機の原子炉が自動停止。送電線などが損壊し、外部からの電源を失った。さらに、約40分後に、高さは14～15mの津波に襲われ、非常用ディーゼル発電機などの機器が水没して非常用電源がストップ。第一原発の全電源が失われ、核燃料の冷却が出来なくなった。

翌3月12日に1号機の原子炉建屋で水素爆発が起き、15日にかけて、3号機で水素爆発、2号機の原子炉で燃料棒が溶けて底にたまる炉心溶融（メルトダウン）、4号機で水素爆発が起き、2号機の爆発が続いた。

事故発生時に、原子炉を冷やす作業に関して、国や東京電力の不手際が重なった。高い放射性物質の漏出、飛散により、放射能の危険と恐怖が深刻になった。政府と東京電力の危機意識が薄く、事故対応と情報提供が遅れ、被災者や周辺住民は長期間、放射能に苦しめられることになった。

「深刻な事故」・レベル7

経済産業省原子力安全・保安院と原子力安全委員会は4月12日、国際的な事故評価尺度(INES)を「深刻な事故」とされる「レベル7」と発表した。事故直後は「レベル4」だったが、「放出された放射性物質が大量かつ広範囲にわたる」として、最悪のレベルに引き上げた。「レベル7」は、原子力史上最悪の1986年の旧ソ連・チェルノブイリ原発事故に匹敵する。

20km 圏内は「立ち入り禁止」

政府は大震災の翌日、福島第一原発から半径20km圏内の住民に「避難」などの指示を出し、一カ月後には、①20km圏内を「警戒区域」とし、福島県双葉町、大熊町、南相馬市など9市町村の住民(約7万8千人)の立ち入りを禁止。さらに、②半径20km圏外で年間の累積放射線量が20mSvシーベルトを超えそうな地域を「計画的避難区域」とし、5市町村の住民に、5月末までに避難するよう指示。また、③半径20km～30km圏内で、年間の放射線量が20mSvシーベルト未満の地域を「緊急時避難準備区域」とし、5市町村の住民に、非常時に備えて屋内退避や域外避難の準備を指示。

「警戒区域」の約2万7千世帯のほとんどが「着の身着のまま」で避難。「緊急時避難準備区域」は9月1日解除された。

そして、政府は2012年に、「警戒区域」と「計画的避難区域」に指定した11市町村を、年間の被爆線量に応じて、新たに次の三区域に再編。

- (1) 年間放射線量20mSvシーベルト未満の区域は「避難指示解除準備区域」。
- (2) 同20～50mSvシーベルト未満の区域は「居住制限区域」。
- (3) 50mSvシーベルト以上の区域は「帰還困難区域」。

「避難指示解除準備区域」と「居住制限区域」は、国が除染作業を行い、数年以内に自宅に帰ることが可能。「帰還困難区域」の人たち(7市町村の2万2千人)は、



5年以上^{きたく}帰宅出来ない。福島県の多くの被災者が自宅に^{もと}戻れない厳しい現実が続く。

放射^{ひさん}性物質^{ろうしゆつ}の飛散・漏出

原子炉が損壊したため放射性物質が大気中に飛散し、土や海水に漏出した。周辺地域の多くの住民が避難を余儀なくされた。

★ 農作物^{のうさくぶつ}の被害と風評被害^{ふうひやう}

土地や農作物が放射能に汚染され、ホウレンソウなどの^{やさい}野菜、牛乳、水道水^{じょうすい}（浄水場^{じょうず}）、牛肉などから食品衛生法の基準を超える放射線量が検出された。福島県、茨城県などのホウレンソウなどが、一時「出荷停止^{しゆつか}」となり、「土壌^{どじょうちゆう}中の放射性セシウム濃度^{のうど}が土 1kg 当たり 5 千ベクレルを超える」水田で「稲の作付け^{すいでん}」が禁止され、農業への不安が高まった。

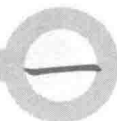
放射能汚染水が海に流出し、茨城県沖でとれたイカナゴ（コウナゴ）から放射性セシウムなどが検出された。休漁^{きゆうりゆう}を余儀なくされるなど、漁業は大きな打撃を受けた。

中でも、福島県の農業や漁業、観光業は、放射能の「うわさ」だけで「買わない」、「行かない」などの「風評被害」に苦しんだ。「価格下落^{かかくげらく}」の影響が広がり、海外では日本の農産物の輸入を禁止した国もあった

★ 放射能^{はいきぶつ}廃棄物

震災廃棄物の中でも、放射性物質に汚染され「がれき」や土壌^{どじょう}、さらに、汚染水などが復旧の大きな妨げ^{さまた}となった。

福島県内で「除染のために取り除いた土や、落ち葉などを燃やした焼却灰^{しょうきやくばい}」は計 2,800 万立方^{じよせん}（東京ドーム 23 杯分）以上の見込み。津波で岩手、宮城、福島、茨城 4 県に打ち上げられたヘドロ（海底の汚泥）の量は 1,000 万トン～1,600 万トンと推計されている。



また、原発の高濃度放射能汚染水を処理した水が増え続け、14万トンの処理水保管タンクには2011年暮には10万ト^ンがたまり、2012年中には満杯^{まんばい}になる可能性がある。処理水は原子炉の冷却に使われるが、施設から漏^もれる汚染水が海水に流れ出る可能性もあり、原子炉^{たてや}建屋へ地下水の流^{りゅうにゆう}入も続いている。処理水を海洋に放^{ほうしゆつ}出すれば、^{ぎよかいりい}魚介類への汚染も懸念^{けんねん}される。

🔗 関連

★ けいかくていでん 計画停電

原発事故で、電力の^{きようきゆうりよく}供給力^{おおはば}が大幅に落ち込んだため、東京電力は2011年3月14日から、管内^{かんない}（関東^{やまなし}と山梨県、静岡^{しずおか}県の一部）で戦後初めて「計画停電」を実施した。管内を5つのグループに分け、朝6時20分から夜10時までの間に約3時間ずつ電^と気を停めた。4月8日まで続いた。

★ でんりよく しようせいげん 電力使用制限

経済産業省は7月1日、一般家庭に^{せつでん}節電^{うなが}を促すとともに、東京、東北電力管内の事業者を対象に15%の電力使用制限を義務づけた。約2カ月後の9月9日、電力使用制限令^{かいじよ}は解除された。